

平成27年度広島・愛媛交流会議 議事録

日 時 : 平成28年2月2日(火) 13:50~15:00
場 所 : 乙女座〔呉市御手洗地区文化交流施設〕(広島県呉市豊町御手洗243番地1)
出席者 :

【行政】 愛媛県知事 中村時広
広島県知事 湯崎英彦
【経済界】 愛媛県商工会議所連合会会頭 森田浩治
広島県商工会議所連合会会頭 深山英樹

意見交換:

- (1) 地方創生について
 - (2) 女性活躍支援と少子化対策について
 - (3) 広域観光連携・産業連携について
 - (4) サイクリングと観光振興について
- その他(PＲ項目等)

1 開 会

【伊達審議官】

ただいまから、平成27年度広島・愛媛交流会議を開催いたします。

私は、本日の会議の進行役を務めさせていただきます広島県経営戦略審議官の伊達でございます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、湯崎広島県知事をご挨拶申し上げます。

2 開会あいさつ

【湯崎知事】

それでは、失礼をいたします。

本日は、大変お忙しい中、愛媛県・中村知事、愛媛県商工会議所連合会会頭・森田会頭、また、広島県からは商工会議所連合会会頭・深山会頭にお集まりいただきまして本当にありがとうございます。

我々は、「とびしま」とも呼んでおりますけれども、この地域は海そして島のコントラストが非常に美しい所でございます。芸予諸島とも言われるとおり、まさに芸州と伊予が混然一体となって、一緒になっている地域でもございます。実際、すぐ目の前には愛媛県の岡村島がございますし、本当に広島県と愛媛県の架け橋というような地域ではなかろうかと思っております。

この御手洗地区でございますけれども、江戸時代から、潮待ち、風待ちの港として大変賑わった所でありまして、先ほどガイドさんからのご説明もありましたとおり、北前

船や江戸幕府の公用船、あるいはオランダの使節等々、さまざまな船が行き交った所でございます。また、大変古い町並みが残っておりまして、懐かしい場所でもございませし、参勤交代のお話もありましたけれども、伊予の国、宇和島藩あるいは大洲藩からも皆さんがいらっしゃるなど、その指定の船宿もございました。それが、実は先ほどの会食会場である「若長」で、今に引き継がれてございます。

また、この地域は、移住、定住の新たな動きが始まっている所でもございます。昨年11月には、「小商いメッセ」というのを広島県で開催をいたしまして、移住希望者が3日間ほどこの地域でお店を開いて商いをしてみるというイベントを行いました。さらに、重伝建を考える会という組織がありまして、地域の自主組織として、空き家の掘り起こし、そして移住者の受け入れといったような活動にも携わっておられます。

瀬戸内の各県には、このような長い歴史、また様々な文化を持った地区がたくさんあると思っておりますし、農産物、海産物も大変豊かな地域でございます。こういった地域が、今、我々が進めさせていただいておりますけれども、手を取り合って新たな場所として活性化につなげていくということが可能ではなかろうか、ブランド化を進めて交流人口を増やしていくということで、そういったことが可能になるのではないかと考えております。

また、先ほども碑を拝見しましたけれども、中村春吉さんが、ここ御手洗出身でございます。中村知事とは自転車仲間であるというところで、この中村春吉さんの世界一周に出ていったという地がここであるわけですが、大変深いご縁も感じるところであります。そういった場所でこの会議を開くことができるというのも、大変ご縁を感じる場所でもあります。

本日は、地方創生、女性活躍、また少子化対策といった両県に共通する課題について議論を深めてまいりたいと思っております。中村春吉スピリットでチャレンジをしてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

【伊達審議官】

ありがとうございました。

それでは、お手元の次第に沿いまして議論をしていただきます。協議につきましては、フリートークでございますので、湯崎知事に進行役をお願いいたします。

3 意見交換

(1) 地方創生について

【湯崎知事】

それでは早速、議題に入らせていただきたいと思います。

まず第一は、地方創生ということで、こちらは私から発言をさせていただきたいと思います。

現在、国また地方、総力を挙げて、この地方創生の取り組みを進めているところであり、ますけれども、来年度からいよいよ新型交付金も始まり、中四国全域でこのまち・ひと・しごとの好循環が図れるように、中四国の各県と経済界が力を合わせて取り組んでいかなければならないと考えております。

また、国に対しても、引き続きさまざまな支援について、協力の依頼をしていかなければいけないと思っております。是非一緒に、国に対する要望等も行っていきたいと思っております。

また、広島県は昨年、地方創生のまち・ひと・しごと総合戦略をつくりました。そのベースになっておりますのが、もともと5年前につくりました広島県の10年間のビジョン、「ひろしま未来チャレンジビジョン」でございまして、それを改定を行いました。その改定にあわせてこの総合戦略をつくったわけですが、その中で、新たなライフスタイルを目指すべき姿として掲げております。それは、「仕事にチャレンジ！暮らしをエンジョイ！活気あふれる広島県」というものなんですけれども、これは仕事か暮らしかどちらかを優先してどちらかを犠牲にするということではなくて、どちらも希望がかなえられる、仕事についての希望、あるいは暮らしについての希望、どちらもかなえられるということを感じることができるようライフスタイルを実現しようと打ち出しております。

こういったものに向けまして、昨年夏にゆう活というのもございましたけれども、広島と愛媛で、例えばこのゆう活に改めて取り組んでみてはどうかなと思っております。

また、先般、今治市と広島県で国家戦略特区の指定がございました。これは別々に申請をしていたものを、国が同時に一体として指定をしたわけでありましてけれども、多様な外国人材の受け入れであるとか、あるいは、産官学が保有するビッグデータの活用といったようなこと、また、観光や産業の発展といった側面で、愛媛県とも全体として連携を図ってまいりたいと思っておりますので、是非よろしく願いをいたしたいと思っております。

私からは以上です。

【中村知事】

では、私のほうから地方創生並びに人口減少対策について、少し触れさせていただきたいと思っております。

人口減少というのは、日本全体の大きなテーマなんですけれども、地方創生ということを考える上においては、これへの対処というのは欠くことができない課題であると認識しています。そのためには出生率を上げるという根本的な解決施策と、それから流入人口を増やしていくという取り組みと、流出人口を食い止めるという三つの方面からの施策展開が必要ではないかと思っております。

そういう中で、今、地方創生交付金等々が創設され、自由度の高い財源が増えるということは、独自政策を展開していく上においては非常に好ましいと思っておりますけれども、1点、ちょっと気をつけなきゃいけないなと思うのは、この交付金ですら、あ

るべき地方分権への一里塚であるという位置付けをしっかりとっておかないと、これがコンクリートされると、相変わらず中央官庁の人が、お前たちアイデアを出せと、いいものについては交付金をつけてやるという、補助金よりは自由度は高いけれども相変わらず上から目線的なひも付き財源ということから脱却できないんじゃないかと。ですから、これはあくまでも、良くなったけれども一里塚であるというふうなことで捉えていきたいと思っています。

そういう中で、今お話のあった国家戦略特区、これも一里塚でありますけれども、一つの突破口にはなるのかなと思っています。特に広島県と今治市が一緒になって指定をされたということは、例えば造船であるとか、縫製であるとか、共通の産業における外国人労働者、技能者の育成であるとか、それから、ともに進めているサイクリング政策のサポートをする、サイクリストの聖地にするための外部育成等、こういった取り組みを一気に、この指定をもって進めることができたらと思います。

1点、今治ではその中で、岩盤規制の問題と絡んでくるんですけども、獣医師大学の誘致というのが、実は特区の中に入っていて、これは西日本に少なく、今でも四国にはない、しかし、今現在、獣医師の資格を持った公務員の必要性も高まっておりますので、何としても西日本に拠点をということですとずっと言い続けてきたことなんですけど、全国の獣医師大学というのはほとんどが定員オーバーになっています。定員オーバーの分が収益になっているという奇妙な状況になっていて、なかなかそういうふうな収益構造の中で進出を認めないというようなところもあるので、これを突破口に切り開いていきたいと思っています。

それから、ゆう活のお話がありましたが、働き方を見直すという点で大事な取り組みだと思います。また、昨年の職業能力開発促進法の改正は働き方を見直す大きなきっかけになると思うんです。働いている人が待ちの姿勢ではなくて自らがキャリアプランをつくり上げていく。雇用する企業側がそれに従ってそれをサポートする義務を持つという、この2点がポイントとっており、今後、人事であるとか企業内教育であるとか、キャリア開発であるとか、様変わりしていくような感じがするんです。

また、これまでワーク・ライフ・バランスとよくいわれていたんですけども、これは、ワーク＝働き方と、ライフ＝生き方というのを別々に捉えて、それをバランスを取りながらキャリアを考えていくというような話だったと思うんですけど、企業側がより歩み寄ることによって、ワーク・ライフ・バランスからワーク・ライフ・インテグレーション、統一するという考え方に変わってくるかなと。

バランスというよりは、一緒になって考えて、キャリア全体を働き方、生き方を考えるような人生プランが当たり前のようになっていくのかなと思うんです。そういう意味では企業側は、行政も含めて、歩み寄るというふうな取り組みを強めていく必要性が生まれますから、お話のあったゆう活の促進であるとか、何が最終的にいいのか僕もよくわからないんですけども、どんどんそういうチャレンジをしていく必要があるのかなというふうに思いますので、是非また連携をさせていただきたいと思っています。

以上です。

【湯崎知事】

ありがとうございます。地方創生について、経済界からコメントをいただければと思いますが、森田会頭、いかがでしょうか。

【森田会頭】

愛媛県商工会議所連合会の森田でございます。地方創生というのは、もともと日本が人口減少の中で、持続的成長を遂げるためにということで、いってみると、地方が日本のGDPの7割を作っているんです。その地方の再生、成長なくしては日本の成長はないわけでございます。愛媛県で言えば地方で人口減少を食い止めて、愛媛が持続的な発展をするためには、突き詰めれば何が大事かと言えば、やはり雇用だと思うんです。仕事なんです。仕事人が人を呼び、その人がまた仕事をつくり出すという循環をつくるべきだと思っています。そういう意味では、愛媛県は民間の従業員の86%は中小企業なんです。ですから、中小企業が元気にならなくては、地方創生は絶対成し得ない。やはり仕事がきちんとあって安定した暮らしもできるし、生涯ここに住もうということになるわけでありまして、そのために、やはり中小企業が雇用、賃金、働きやすい環境、それと子育てしながら働ける環境づくりを中小企業がしっかりやる、これが地方創生に繋がると思っています。

そういう意味で中小企業の経営体制を強化していくことが大切で、創業支援とか、それから経営改革支援、ICT対応、事業承継、企業再生、海外展開、こういった中小企業が元気になるための対策を、会議所も中核として頑張っていきたいと思えます。

これらの事業は官民一体となって、一緒になってやっているところではありますが、これから地方創生、出生率を上げるというのは大変なことなんです。やはり、課題はいくら地元に戻りたくても、働く場所がなければならぬということがありますので、雇用の確保を基本にしっかりとやっていかなければならないと思っております。

それと、今問題になっているのは労働力不足です。人材不足。これがやはり中小企業の体力を奪っている。人口減少の中で働き手が減ってきている。そして、この間も総務省から出ましたけども、東京一極集中がまだ進んでいる。愛媛県もかなり、あれは去年のことですね、東京が1割ぐらい増えて、愛媛県は1割逆に減っているということがありまして、社会流出、これは大変なことだと思っています。

そういう意味で、しっかり魅力ある中小企業の働く雇用環境づくり、そのためには中小企業が発展するような仕組みづくりをやっていきたいと思っております。

【湯崎知事】

ありがとうございます。深山会頭、お願いいたします。

【深山会頭】

私ども商工会議所としても、二つの大きな柱の取り組み、中小企業の活力強化と地域

の活性化、まさに地方創生と目的が合致するところです。

先ほど湯崎知事からありました、ひろしま未来チャレンジビジョン改定版を策定されました。「仕事にチャレンジ！暮らしをエンジョイ！」ということにつきましては、我々も大いに賛同できることです。経済界としてもできる限りの協力をしていきたいと思っております。

それから、東京一極集中の是正を図る上で、東京と地方間の交通アクセスの時間短縮を図ることが非常に大事だと思っております、地方においても必要な社会基盤整備を行っていくことは大変重要ではないかと思っております。

人口、製造業の出荷額、企業数の約5割、農林水産業の約8割が地方圏に存在する。我が国におきまして、地方経済の再生なくして日本経済の再生はないと考えております。

こうした人口減少下において、地方圏を維持発展させていくためには、まずもって地域内外の交流人口を増やすとともに、新たな仕事を生み出していくことが大変重要ではないかと思っております。例えば、広島県におきましては、重厚長大型産業の振興に加えまして、知識創造型産業、例えばソフトウェアの開発、情報関連機器の開発、ロボットの開発等々であります。そういった企業を誘致・育成するなど、地域の付加価値創造に取り組んで、新たな仕事を生み出すことで人が集まる仕掛けづくりをしていくことが肝要ではないかと思っております。

【湯崎知事】

ありがとうございました。

地方創生が非常に重要であるということは、皆さん、共通の認識だと思います。また、その中で、今、森田会頭、あるいは深山会頭からもありましたように、地域の再生なくして国全体の再生はないということ、これを改めて発信をしまいたいと思っておりますし、そのための中小企業支援等もしっかりやってまいりたいと思っております。

戦略特区については、連携をしてよろしく願いいたします。

（２）女性活躍支援と少子化対策について

【湯崎知事】

そして、関連しますので、早速次に進みたいと思っております。女性活躍支援と少子化対策というテーマで進めたいと思っております。こちらから発言をさせていただきたいと思っております。

先ほど森田会頭がご指摘になった労働力不足、これに対応していくため、また、少子化対策の一環としても、女性の活躍の推進というのが非常に重要ではなからうかと思っております。というのも、女性の有業率が高いほど実は出生率も高いという正の相関関係もありますので、少子化対策あるいは労働力不足対策ということで、女性が仕事と家庭生活を両立して、生き生きと仕事ができるということは、重要ではないかと思っております。

そのために企業経営者が社内の働き方を見直していくということが大きな鍵になるのではないかと考えておりました、この広島県と愛媛県、行政と経済界が連携をいたしまして企業トップの意識を変えていくといったこと、これが女性活躍にとっては非常に有効なのではないかと考えております。

実は、お手元に資料2というものを配布させていただいていると思います。深山会頭の旗振りによって、広島県では「働く女性応援隊ひろしま」というのをオール広島県で進めておりました、また、めくっていただきますと、「イクボス同盟ひろしま」、もともとこれは「イクメン企業同盟」だったのですが、改名しまして「イクボス同盟ひろしま」になっておりますが、こういったことを進めております。

今後、面として女性活躍の機運を高めていきたいとも考えておりました、中四国全体で女性の活躍を応援していけないかなというところで、今日お集まりの皆様方にもイクボス宣言をしていただくというのはいかがかと、深山会頭にはいろいろご検討いただいていると思うんですけども、そういうことをして機運を盛り上げてはどうかと考えておりますので、ご検討いただければと思います。

それでは、中村知事、お願いいたします。

【中村知事】

実は、その議論に入る前に、あるデータを見ていたら、四国の方の話なんですけども、県庁所在地における1世帯当たりの所得が、4県の県庁所在地の中で松山が一番低かったんです。何でだろうと思って調べていたら、共働き比率が最も低かったんです。

これにはちょっと驚きました。それは生き方の問題なのか、ゆとりの問題なのか、そこは分からないんですけども、数字が全然違うんです。それは、両方の意味合いがあるんだろうということで、取り組みをしていかなきゃいけないなという認識に、今、立っています。

ちょうど、そういう意味では女性活躍推進法が制定され、特に大企業には管理職に占める女性比率などの数値目標を盛り込んだ行動計画の策定を義務付け、中小企業には努力義務ということになりましたので、特に、まずその環境を整えるために中小企業を対象にした計画策定というものを積極的に推し進めるということ、それから、それを具現化するために、いろいろな運動展開、キャンペーンなどを積み重ねていく。

例えば、「えひめ共働き支援キャンペーン」というのを平成27年度は実施しております、これは26年度から実施しているんですけども、こういったことで啓発活動を強めていくということ。

それから県自体も、外郭団体ではどんどんやっているんですけども、残念ながら県庁の女性管理職はまだ少ないです。ただし、制度的には管理職は手挙げ方式で、男女を問わず、ある一定の年限が来れば誰でもチャレンジできるという試験制度を導入しておりますので、ようやく今年あたりから女性のチャレンジ資格が増えてくる時代に入ってきました。これから、急速に女性の管理職が増えていくのではないかなと期待をしているところでございます。

いずれにしても、こうしたようなことを積み重ねて、女性の活躍する社会実現へのサポートを、県庁としても頑張っていきたいと思っています

イクボスについては、皆さん、御同意であれば。私はその資格があるかどうかわからないんですけども、そういう宣言については何ら問題ないと思いますし、時代の流れかなとも思います。

それから、少子化対策なんですけども、これは、実は今日、森田会頭もいらっしゃるんですが、官民協働型で愛媛県は7年前から婚活事業に力を入れてまいりました。これは、愛媛県が各種団体と一緒に考えながら予算化をして、県法人会連合会で運営していただくという官民協力型になっています。税の徴収をする法人会です。

実は、もう既に7年間で誕生したカップルが9,000組に上っています。結婚が、報告があっただけで600組になりました。報告がないカップルもいますので、実際にはもっと多いと思います。

何でここまで来たかという、数年前に法人会のほうから、予算を増やしてほしいと要望が来たんです。それはどういうことかと聞きましたら、1対1のお見合いなどでシステム化を図る新たな展開をしたいと。必ず結果を出せますかということをお聞きしたら、必ず結果は出しますよという答えが返ってきたので、そのときにどんと予算を増やしたんです。

それが功を奏しまして、今200万件のビッグデータを活用したマッチングという事業を行ってまして、これが成功率を高める一番大きな要因であったと思いますので、これは参考になるんじゃないかなと思っています。

それから、もう一つが、これは自分の公約にも入れてたんですけど、スマートフォンやタブレットを活用した子育て支援アプリケーションの作成です。これを2年がかりで開発しました。例えばどういうものかといいますと、きらきらナビといいますけれども、自分のお子さんの生年月日を入力していただくと、1か月ごとに、この月はこういうことに気を付けてくださいというアドバイスが自動的に、データから拾われて提供されるんです。そして、1か月ごとにそのメニューが自動的に変わっていきます。

かつ、子育てに関するイベントの案内であるとか、この年代に応じてどんな悩みの声が多く寄せられているかというのが自動的に見られるようなアプリケーションなんですけども、これはさまざまな団体のお力も借りながら、2年がかりでデータベースを作成して、12月末から提供を開始いたしました。

まだ1か月ですけど、既に千何百件の登録をいただいています、こういったものを活用しながら子育て支援の面から少子化対策にも取り組んでいきたいというふうに思っています。

【湯崎知事】

ありがとうございます。

それでは、経済界お二人、今度は深山会頭からお願いしてもよろしいですか。

【深山会頭】

湯崎知事本人からはなかなか言いにくいと思いますが、知事が就任されて以来、広島県の出生率が上がってきております。湯崎知事は就任以来、イクメンの応援制度、これを推進していこうということで、ご本人も実行されますし、そういった制度を推進していこうということでやられてきた結果ではないかとも思っております。

それから、先ほどお話のございました、私が代表を務めて湯崎知事にもご参加をいただいております、働く女性応援隊ひろしまの活動の一つとしまして、昨年7月にイクボスプロジェクトを進めているファザーリング・ジャパン代表、安藤さんという方にイクボスのすすめと題した講演をいただいたところです。このイクボスの普及促進や働き方を変えていくということも大変大事ではないかと思っております、私もこのイクボス同盟を広めていくということについて、県内の商工会議所に呼び掛けて、是非ともイクボス宣言をしようと、今、準備を進めているところです。

ただ、ある年齢以上の方は、若いころの自分と違う、なかなか受け入れることが難しいということもあるかもしれませんが、人口減少が進む中で生産性を上げ、男女や年齢を問わず、多くの方々に活躍してもらうには、やはりこういった制度は取り入れるべき考え方であろうと思っております。

現在、経営者の皆さんにご理解をいただくための取り組みを進めていこうということでやっているところでございます。

【湯崎知事】

ありがとうございます。では、森田会頭、いかがでしょうか。

【森田会頭】

愛媛県は、今、中村知事が言われたように、大企業は義務化されますので、300人以下の企業に対する女性活躍推進の自主目標の設定を、いろいろ啓発していこうということで取り組みをやっています。

運営の主体になっているのは、えひめ女性活躍推進協議会という組織を昨年立ち上げまして、私、その会長なんですが、経済団体、農業団体、労働団体、あらゆる団体が入っており、22団体・機関と、県と松山市にも入ってもらっており、それを中心に女性活躍推進のための行動宣言を出しまして、ひめリットマネジャークラブというものを、これはイクボスに近いんですが、経営者や管理職にセミナーを開いたりして啓発する活動を県から活動費をいただいで、27年度から取り組んでいます。

それと、ひめリットメンターネットについて、女性従業員の勉強会というネットワークもあり、それも今、活動しております。

それで、今取り組んでいるのが、300人超の大企業が取り組むことを中小企業にも促すために、自主目標を決めてもらう、例えば、育休をとらせるようにしていますとか、仕事と両立させていますとか、時間外労働はさせないようにしていますとか、細かいジャンル毎に自主目標設定状況がわかるシートを提出してもらう事業を、今、始めたばかりです。

そういうことで、湯崎知事が言われたイクボスに近いようなことは今やっていますので、これを共同で形にすることはできるのではないかと思います。これはまさに官民が一体となって、女性活躍推進協議会という機関を設置して、行政と一緒に、女性活躍に取り組んでいるということです。

先ほど中村知事からありました婚活の話ですが、これ実はだんだんと話が大きくなって今はもう国のモデルになっておりまして、内閣府から、都道府県担当者を集めた会議で、実質の運営は愛媛県法人会連合会がやっている県の結婚支援センターなんですけど、その担当者がそこで説明して、その結果、全国の自治体等のいろんなところから引き合いや視察が来ると。

現在は、データベースを基にビッグデータを使ってリコメンド機能を整備しております。これは東京にある大学の先生に考えてもらって作ったソフトなんですけど、お相手を推薦するというか、条件や属性ではなく、過去の膨大なデータをもって、あなたならこういう人とお見合いをしたら合うのではという仕組みでして、それで、カップル率が、従来の1対1のお見合いが13%ぐらいであったのが、29%に引き合わせ率が上がっています。

成婚数も上がっており、集団での出会いイベントは大体年間200回以上やっています、いろいろな地域で、いろんな場所で開催しています。このイベントよりも、ビッグデータを使った1対1のお見合いの方が成婚数が倍ぐらいになっています。また、ビッグデータからは女性からアプローチした方が倍の確率でカップルが成立しており、女性がビッグデータを利用するケースが増加しています。成婚の好事例とか、いろいろな分析結果ができています、これを28年度には、県に少子化の交付金を使っていただいて精度を高めることを、例えば、心理学者なども入れてもっと精度を高めていく、フィーリングみたいなものをもっと取り入れていくとかということを提案しております。

それから、元に戻りますが、女性活躍推進で、広島県は、昨年イクメンメンターですかね、イクメンのネットワークがあったかと思いますが。

【湯崎知事】

企業同士のです。

【愛媛県・森田会頭】

その企業同士のものを、愛媛県ではこれから知事をお願いして、イクメンを推進するメンターのネットワークみたいなものを、企業間で作っていかうということをやろうかと思っています。逆になるんですけども、当事者と管理職の両方を攻めていくということです。

それともう一つ、話が前後して申し訳ないですが、婚活というとまだまだ登録しないという人が多いんですね、結構。今、若い人たちは、お見合いまでしたくない、異性の友だちはいないという考えの人が増えているようです。さきほどの「ゆう活」ではないですが、「友（とも）活」という友だちになるような、企業同士の従業員の出会いイベントをすとか、そんなこともやってみたらどうかと。ここまでやるのかという意見もありますが、そんなことをしないと、まず婚活で入ると、なかなか登録まで進んでいかないという現状がありま

すので。男性の50歳までの未婚率が2割を超えていますし、女性は11%ぐらいですか、これは大変なことなので、まず集団でいろいろ集まって知り合いになる、友だちになるという仕組みを考えて提案しようと思っています。

【湯崎知事】

ありがとうございました。

今、中村知事と森田会頭のお話をお伺いして、愛媛県というのは本当に進んでいるということが、よくわかりました。是非、勉強させていただき、できれば応用もさせていただいて、ビッグデータなどは、我々の方でもたまると、よりデータが大きくなり、精度も上がっていくということもあるかもしれませんので、さらに詳しくお伺いして取り組ませていただければと思います。

【森田会頭】

この間、総務省から連絡があり、総務省の地域情報化大賞2015で、全国の中からこのビッグデータを使った愛結びの活用というものが特別賞に選ばれました。大臣表彰で3月に表彰されるそうですが。

【湯崎知事】

おめでとうございます。

【森田会頭】

先進事例というか、ビッグデータを使って、地域の課題を解決する取り組みとして、非常に優秀だというおほめをいただいております。

【湯崎知事】

ありがとうございます。イクボスについては、皆さん、特に支障なしというご意見だったと思いますので、何かまとまってできるかということも含めて、事務的に検討していただきたいと思います。

【中村知事】

逆にイクメン、イクボスに関しては、広島が先進県ですから。ただ、データの的にイクメン……男性の育児の手助けがある場合に、第2子誕生の確率というのが非常に上がっているという具体的なデータが出ていますので、これは実は少子化対策に、非常に見えにくいんだけど、極めて効果がある。さっき深山会頭がおっしゃったデータも、それに裏付けされているんだろうと思います。

ですから、そういうふうな観点から、我々はこの部分は是非いろいろと学びたいと思っています。よろしく願いいたします。

【湯崎知事】

ありがとうございます。

(3) 広域観光連携・産業連携について

【湯崎知事】

それでは、引き続きまして広域観光連携、産業連携について、議題としたいと思います。

こちらは、まず深山会頭からご発言をお願いします。

【深山会頭】

まず、瀬戸内しまなみ海道と中国やまなみ街道を活用した観光・産業面の連携についてですが、広島商工会議所が事務局を担っている、中四国セントラルルート地域連携軸推進協議会におきまして、中国やまなみ街道が全線開通する2年前から沿線地域への経済波及効果等について、継続的に調査を行っております。

松江自動車道が全線開通した後に実施しました平成26年度の調査におきまして、観光振興について集客力がある観光施設の背後の観光地への人の流れを誘導して周遊化していくことが今後の課題の一つとして挙げられております。

こうした中で、産業界におきまして、三次商工会議所が昨年8月に、中国やまなみ街道を生かした活性化策を探るシンポジウムを開催されるなど、高速道路を生かした広域連携について模索されております。

愛媛県、広島県の両県におきましては、二つの街（海）道のよりいっそうの認知度向上に向けて、より効果的な情報発信を行うとともに、県境を越えた広域的な連携について取り組みを強化していくことが大切ではないかと思っております。

2点目は、広域観光周遊ルートの形成促進といった点であります。広島商工会議所が運営しております広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会におきまして、広島湾域の特性を生かした体験型修学旅行の誘致に取り組んでおりますが、その中でも船でしか行くことのできない、いわゆる完全離島の大崎上島の人気が非常に高く、リピーターも多くなっております。

この大崎上島の魅力は、体験型修学旅行の受け入れ先が比較的多いことに加えまして、当地でしか味わうことのできない瀬戸内海の島の体験だと聞いております。

瀬戸内の広域観光周遊ルートを検討していくに当たりまして、当地域には鉄道、道路のほか船によるクルーズを使った観光ルートを形成していくことができるという瀬戸内海の大きな特徴であり、強みがあると思います。

このような事例も参考にしながら、瀬戸内海のクルーズを活用した、滞在型の観光資源を開発して、大いに売り出していくことも大事ではないか、検討してみたらどうかと思っております。

【湯崎知事】

ありがとうございます。

それでは、続いて中村知事にお願いをいたします。

【中村知事】

今、深山会頭からやまなみ・しまなみの連携というようなお話が最初にございましたけれども、これは島根県知事からも提案があって、是非連携をとという直接電話がかかってきまして、その行司役は広島県知事になるんだろうと思っております。

かつて、実は、僕が松山の市長のときだったんですが、当時の松江市長、尾道市長、今治市長、松山市長、高知市長、この縦のラインで文学ルートというのをやろうということで、シンポジウムをやったこともあったんです。それこそずっと縦に続いていくんですよね。松江から始まって龍馬の高知まで、それぞれに縦のルートに著名な小説が残されていますので、これを結び付けていこうという発想だったんですけれども、アクセスの問題があって、残念ながらそう大きな流れにはならなかったんです。

ただ、今回やまなみ街道が開通したことによって縦のラインがしっかりとしたものができました。これは広島と愛媛県の縦のラインだけではなくて、面でどういうふうな捉え方をするかということが大事な時期に入ってきていると思うんですが、そういう意味では、まず、湯崎知事が提唱された、瀬戸内海全体をとということで、今度は組織も変わって民間の方がトップになって進めていきますけど、この面的な瀬戸内海全体を視野に入れた取り組み、これはもう本当に広島県がリーダーシップを取っていただいてまして、感謝を申し上げたいと思います。

と同時に、今度は愛媛と広島の2県ということになると、やっぱりまず縦の線としてはしまなみ海道があり、そして今日、まさにここに来ていますけども、とびしま海道、愛媛側のゆめしま海道と、いわば「カイ道」めぐりという面からの面的な位置付けも一つのテーマになってくるかなと。そして、今回のしまなみとやまなみというふうなラインというの、一つの面になってくるのかなと。

こういう、それぞれの特色ある面的な捉え方をしっかりと共有してメニュー化していくことによって、魅力というのはつくり出していけるのかなと思いました。

特に、やまなみ・しまなみというのは、何がいいのかわからないんですけど、やまなみ・しまなみリレー駅伝とか、体力系がすぐ頭に浮かんじゃうんですけど、何かいろんなアイデアがあると思うんですよね。やまなみ・しまなみ、全く異質なだけに、ただ、しまなみからやまなみに行くと相当苦しうだなどと、山からしまなみに下りてくると下りが多そうだなという感じはするんだけど、そういったスポーツ面であるとか、食の面であるとか、文化の面であるとか、文学の面であるとか、いろいろなアイデアがあると思うんです。

一時、面というものをまず共有財産にして、各県の例えば政策立案担当者なんかが集まって議論してもらおうとか、そういうステップを踏んでいくと、思わぬ魅力的なコ

ンテンツができてくるような気がしますので、是非そんなところを共有できたらというふうに思っています。

そのためにも、ちょっとこれはハードな話になってしまうんですけども、今治小松自動車道という、しまなみ海道と四国の高速道路、そして松山を結ぶという、やっぱり高規格道路というのは非常に重要で、ここがつなぐと、さらに重層な縦のラインができるのかなと思いますので、これも整備を急いでいきたいと思います。

以上です。

【湯崎知事】

ありがとうございました。

駅伝をやるというのはすごい案ですね。これ、盛り上がるかもしれないですね。駅伝、あるいはたくさんの方が参加できるので、ウォークラリーみたいのもいいかもしれないですね。何かそんなことも考えてまいりたいと思います。ありがとうございました。

次に、森田会頭、お願いいたします。

【森田会頭】

実は、昨年、やまなみ街道の開通を契機に、昨年4月に沿線の4商工会議所、松江、尾道、今治、松山という4会頭会議を開きまして、これからいろいろやっていこうということをお申し合わせしました。

具体的にできることをやろうということで、いろいろなイベントにお互いに参加しようということで、松山まつりとか、松江水郷祭というのがあるんですが、これに物産ブースを相互に出店するとか、松江と松山の会議所の女性部会の交流をやったり、えひめ・まつやま産業まつり、そこにやまなみ街道の紹介ブースを設置したり、ごく最近、この間の日曜日なんですが、やまなみ・しまなみ菓子まつりというのが松江であったんです。これに共同出店ということで、松山、今治、尾道、因島、この4商工会議所の傘下のお菓子屋さんが出店しました。非常に好評でした。というようなことを、今、やっております。

この28年度は、こういうものを生かして広域でのPRパンフレットを作ったり、それから広域観光ルートモデル化とか旅行商品とか、こういう行動を少し起こそうかなということをお言っています。

今おっしゃったように3県の連携の事業も検討されているということで、そういうものと連携して、既にある会議所間の連携を進めていきたいと、こんなふうに思っています。去年の11月に広島と愛媛の各市の会議所の専務理事会がありまして、これからいろいろな瀬戸内海を含めた、やまなみ・しまなみを含めたものを中心に、両県のいろいろな交流をしていこうということをお申し合わせたようでもありますので、一層、これから交流を深めていきたいと、こんなふうに思っております。

【湯崎知事】

ありがとうございました。経済界同士の交流も大変心強いものだと思っております。私からは、やはりこのしまなみ・やまなみ連携について、まず申し上げたいと思うんですが、今既に島根と鳥取を含めて、広域のサイクリングなど、アウトドアを中心としたルートの設定という話を始めております。是非4県の連携を深めて、島根だけではなく鳥取も含めて連携を進めてはどうかと思っております。

先ほど中村知事がおっしゃったミッシングリンクですね。こここのところの解消も非常に重要だと思っておりますので、広島県も要望をしまいにしたいと思います。

それから、瀬戸内ブランド推進連合、これは4月からせとうち観光推進機構になりますけれども、中村知事から言及していただきましたけれども、今後、新しい機構で各拠点の魅力を高めるということを進めていくことになるかと思いますが、その拠点の関係機関で部会をつくる、つまり拠点の連携を図れるような部会をつくって、受け入れ環境であるとか、あるいは観光プログラムの充実といったことに取り組んでいきたいと思っております。

是非こういった取り組みを通じて、瀬戸内全体もインバウンドの、世界からのDestinyになるようにしまいにしたいと思います。

そして、東京都との連携というのも、これ、東京側からも積極的にお声掛けもありまして、2020年のオリンピックのときに外国人が東京以外の所にも行くだらうということで、これも是非せとうち・海の道ルート、広域観光周遊ルートになっておりますが、東京からこのせとうち・海の道ルートに来るように、愛媛とも連携・協力しながら進めてしまいにしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

【中村知事】

すいません。

【湯崎知事】

中村知事、どうぞ。

【中村知事】

今、湯崎知事のほうからオリンピックでの機会を捉えた誘客という視点の話があったんですけども、これは知事会でも申し上げて賛同していただける県と賛同していただけない県があるので、知事会という形では難しいのかなと思うんですけど、どっちにしろオリンピックのときというのは、競技が集中する関東エリアに海外の方は第一歩を刻むことになり、それを何とか誘客しようと東京を中心に各地方が宣伝をする、ここまでの姿は見えるんですが、それが実際に地方に誘えるかということ、一番ネックになるのは、地方への交通費の値段の高さだと思うんです。これがやっぱり、移動手段のコストが大きな足かせになって、特に四国、中国というのは、それが最も顕著に出るんじゃないかと思うんですけども、せっきやくここまで瀬戸内という枠の中で連携していくのであれば、期間限定で、オリンピックでも1カ月ぐらいの期間なんで、この期間に限定した、例え

ば有効期間が4日や5日の空・海・陸、飛行機も新幹線も含めた周遊チケット、いわばフリーパスですね。それを1枚買ってあげば、この期間中、4日間の間で飛行機でも新幹線でも乗り放題、乗れるというふうな周遊フリーパスというのを、もしも発行できたとするならば、まさに地方への移手段の足かせになる移動コスト、高い移動コストをカバーできる手段になるんじゃないかなと思いますので、是非これは言い続けたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【湯崎知事】

周遊フリーパス、非常に素晴らしいアイデアだと思いますので、では賛同できる県でやってみましょう。是非是非、詳細にまたお伺いをして、我々も乗りたいと思います。

それでは、時間も迫っております、船のお時間があるということなので、急いでまいりたいと思います。

(4) サイクリングと観光振興について

【湯崎知事】

最後の議題になるんですけれども、サイクリングによる観光振興ということで、中村知事からお願いいたします。

【中村知事】

では、僕も簡単に。瀬戸内しまのわ 2014 を共同でできたこと、これは大きな起爆剤になったと思いますし、また、国際サイクリング大会の共催でしまなみ海道が一気に世界のサイクリストの聖地に昇華したのではなかろうかというふうに思います。

これは、引き続き取り組んでいくことが重要で、あの規模になるとどうしても4年に一度が精一杯だと思いますけども、今年は中間年ということで、また共同で 3,000～4,000 人規模で開催できたと思いますし、この共有の財産を大事にお互い認識して磨いていくことが、島しょ部だけではなく両県の発展に必ずつながると思いますので、そのコンテンツとしてサイクリングに力を入れていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【湯崎知事】

ありがとうございます。

それでは、森田会頭、お願いいたします。

【森田会頭】

サイクリングは中村知事が提唱されていますけれども、民間でも一昨年になりますか、サイクリング・パラダイスえひめ推進会議というのも立ち上げてまして、今、これ経済界、

農業団体、いろいろ入りまして 423 企業・団体で組織しています。

これは、県の自転車新文化の推進に協力しようということで、官民一体でサイクリング・パラダイスえひめの推進に、取り組んでいくための母体であります。それで、いろいろなサイクルイベントをやるとか、県のいろんな方針へ共催するとか、そういう行動をしております、まだまだですけども、これからも愛媛県をサイクリング・パラダイスにするため、四国を、そして瀬戸内海をという意味で、これからも活動を強化していきたいと思っております。両県の経済界もこの辺を一緒になってやっていきたいと思っております。

以上です

【湯崎知事】

ありがとうございます。

深山会頭、お願いいたします。

【深山会頭】

しまのわ 2014 は、大成功であったというふうに思います。瀬戸内海の魅力を観光客にアピールすることができて、大きな成果があったと思います。

引き続き、両県が連携して、瀬戸内海の観光振興、交流人口の拡大に引き続き取り組んでいきたいと思っております。

以上でございます。

【湯崎知事】

ありがとうございました。

今年、しまなみサイクリングの中間大会がございまして、また、30 年には本大会があります。是非愛媛と連携をして大成功に導きたいと思っております。

そういう中で、特に私はインバウンドというか、外国のお客さんにもっと、もっと知っていただければと思いますので、そういった方面での力をさらに入れていきたいと思っております。

それから、しまなみ海道は、おかげさまで世界的にも有名になりつつあると思っております。それですけども、瀬戸内海の中のその他の地域については、まだまだこれからなのかなと思っております。

愛媛のほうは、愛媛マルゴト自転車道、あるいはサイクリング・パラダイスえひめという取り組みの中で、非常に県全体が面としてサイクリングが活性化されているのではないかと見ておまして、そういう意味では、愛媛県はもともとサイクリング先進地だったんですけど、中村知事になられてからものすごい加速して、すごい進んでるなという印象を受けております。是非、そういった先端的な取り組み、いろいろな案内標識とかサイクルオアシスとか、レンタサイクルだとか、あるいはサイクリングマップの全県的な整備ということ、これは瀬戸内全体のサイクリングコースでこういった先進的な

環境整備が進むように働きかけてまいりたいと思います。

ありがとうございます。以上でございまして、おかげさまでちょうど、なんとか時間どおりに、最後、つじつまが合ってまいりました。

(5) PR事項

最後はPR項目ということで、これは愛媛県からお願いしたいと思います。

【中村知事】

今年はちょっと長丁場になるんですけど、3月から11月の8カ月ぐらいにわたりまして、愛媛県の南予、松山から南になるんですけども、大洲市や八幡浜市、宇和島市、西予市、伊予市、そして内子町、伊方町、松野町、鬼北町、愛南町といった南予をフィールドにした「えひめいやしの南予博2016」というイベントを行います。

ちょうどこのとき、高知では「2016 奥四万十博」をやっている、これと県境を越えて連携をしながら、秘境・秘湯、あまり今まで訪れたことがない方が多いと思うので、自然の魅力を一気に癒しというふうな観点から情報発信して、地域でもてなすというイベントを行うことになっていますので、また、しまのわ2014のように手づくりイベント満載の南予博になりますので、広島県でも是非宣伝をさせていただけたらと思っております。

それから、秋には先ほど言った、広島県と共催のサイクリング大会もありますし、同じく11月の後半、2日間にわたって全国ゆるキャラ決戦大会が松山で開催されます。決戦会場で直接投票すると、去年の場合1.5票換算されますから、近い広島でキャラクターをみんなで盛り上げて推したら、松山会場で一気に票が稼げるという地の利が得られますので、是非地域を挙げての、市・町・県も含めてゆるキャラグランプリにエントリーをしていただけたらと思います。

なお、愛媛県の代表格のみきゃんは、昨年インターネット投票で1位になって、決戦投票では今の1.5票の問題があって負けたんですけども、今年はお出ません。地元が有利になるので、2年連続地元キャラが優勝したらしらけちゃうので、あくまでもおもてなしに徹しますので、広島県にも大いに優勝のチャンスがあるのではないかと思いますので、是非お待ちをしています。

以上です。

【湯崎知事】

ご招待ありがとうございます。

南予は、私、去年5月に家族でまいりまして、非常に美しい海と緑の大変素晴らしい所だなと実感しましたし、この写真もすごくきれいですよね。是非、またお伺いしたいと思います。県内でも宣伝に努めてまいります。

私からは、今年行われます全国高等学校総合文化祭、これが 2016 広島総文と銘打っておるんですけども、7月 30 日から8月 3 日まで開催されます。県内各地で行われるんですけども、是非愛媛の皆さんにもご来場いただいて、愛媛の高校生のステージもたくさんありますから、応援をしていただきたいと思います。

また、インターハイも実はございます。これは中国 5 県で開催するんですけども、愛媛の高校生、やはりこちらにも出場されますので、是非、知事も応援に来ていただければと思っております。インターハイは、7月 28 日から8月 20 日の期間です。いろいろな場所でございます。

もう一つ、広響しまのわコンサートについてもご紹介させていただきたいと思うんですけども、これは平成 26 年度から瀬戸田のベル・カントホールという所で、コンサートを行っております。小さいんですけども、大変素晴らしいホールでございます、昨年、今年度ですけども、12月 6 日にいよぎんさんにも特別協賛をいただいて、また愛媛県にもご後援をいただいて開催をされて、大変好評を博しました。今年、28 年度は10月 15 日に開催する予定にしておりますので、是非こちらにも、愛媛県からもたくさんお越しいただければと思っております。よろしく申し上げます。

それでは、以上でよろしいでしょうか。特に、あと何かこの機にご発言をなさりたいということはございますか。

【森田会頭】

愛媛県は、来年、国体開催します。

【湯崎知事】

そうだ、国体。

【森田会頭】

そのため、今年は春からリハーサル大会を各地でやりますので、是非それにもお越しいただきたいと思います。

【湯崎知事】

わかりました。ありがとうございます。

それでは、以上で意見交換の終了とさせていただきたいと思います。本日は、本当にありがとうございました。

【伊達審議官】

ありがとうございました。以上で、本日の交流会議を終了させていただきたいと存じます。

閉会に当たりまして、中村愛媛県知事様からご挨拶いただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

4 閉会あいさつ

【中村知事】

本日は湯崎知事はじめ広島県の事務局の皆さん、また、島の皆さん、視察も含めて温かいご配慮、準備をいただいたこと、本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

また、経済界から深山会頭、森田会頭、お忙しい中ご出席をいただきましてありがとうございました。

本会議はもう少し早く、昨年中に開く予定でありましたけれども、愛媛県の都合で順延になりましてご迷惑をおかけしましたことも、あわせてお詫びを申し上げたいと思います。

地方創生、人口減少、これは全国共通の課題でありますけれども、さまざまなメニューはそれぞれの県、同じメニュー、共通したところも多いと思うんですが、そこには得手・不得手というのがあると思うんです。

例えば、今日の議論の中で、イクメンに関しては、広島県は非常に先駆的な、湯崎知事自らが先頭に立って取り組んできた経緯もありますので、私どもからすれば非常に参考になるところもありますし、また、婚活に関していえば、愛媛県は全国でもトップランナーだと思っておりますので、こうした、お互いが話し合うことによって、なるほど、こういうやり方があるんだという、非常にお互いが参考になるような刺激をいただけるような会だなということが感じられると思いました。

もう一つは、最後のほうに出ていた、これからいろいろな道路整備なんかが進んでいく、あるいは東京オリンピックなんかの大きなイベントがある。そういうときに点ではなく線で、そして線ではなく面で捉えて物事を進めていくほうが、魅力というのは輝いていくというふうなことだろうと思っておりますので、より一層、連携というものが必要だなということを実感させられた会議でもありました。

是非、隣県ということもありますので、今後とも連携、どうぞよろしくお願い申し上げます。お礼のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

5 閉 会

【伊達審議官】

どうもありがとうございました。

それでは以上をもちまして、交流会議を終了いたします。本日はご協力いただき、誠にありがとうございました。

6 記者ぶら下がり

【記者1】

NHKの広島放送局の古山(こやま)と申します。

先ほどイクボスの話が出ましたが、中村知事はイクボス宣言をされたということでしょうか。

【中村知事】

これから帰って検討しますが、広島県と一緒にやっていくにはどういう打ち出しがいかというのとは別にして、賛同させていただきたいと思います。

【記者1】

ということですが、湯崎知事、いかがですか。

【湯崎知事】

是非。大変、イクボスが増えるにはありがたいと思いますので、うまく進めていくことができるように、相談させていただきたい。

【記者1】

先ほどオリンピックを見据えた周遊チケットなどの話もありましたけれども、改めて、どうしてこういうことが必要なのか伺いたい。

【中村知事】

オリンピックで海外から東京に人が来ますが、その人たちが地方に来るには、やはり地方に行くための移動コストが高いというのはネックになると思うんですよ。ですから、国も1カ月という限定された期間なんだから、地方に人をというのであれば、周遊券等々をその期間限定で発行する補助制度ぐらいは作って、全国に東京オリンピックの良さというものを活用して、力を、活性化のパワーを地方に波及させていくというぐらいのことはやるべきではないかなと、これは僕の特論なんですけど、是非これからも突き上げを続けていきたいと思っています。

【記者1】

湯崎知事は。

【湯崎知事】

素晴らしいアイデアだと思います。どういう形で現実にできるかというのはいろいろあると思いますが、少し考えても、例えばJRなんかも指定席が埋まると大変かもしれませんが、例えば自由席で空いていれば、ほとんどノーコストに近いような形で乗せても、別に付加的にコストがかかるわけじゃないから、いいわけですよ。逆にそれがなければ移動も起きないということもあるので、そんな考え方も含めて要望したり、

これからまだ4年ありますから、その間に実現できる設計を検討したい。

【中村知事】

ただ、ほっといても人が集まる東京とか大都市は多分、反対するんですよ、取られると。そこら辺が、有志でやらざるを得ないという構造の要因ですね。

【記者1】

国に対して言っていくと。

【中村知事】

地方全体にということ国は言っているわけですから、それを具体化するためにはこういう提案がありますよというように言い続けたいと思います。

【記者2】

今日の会議を終えて、それぞれ今後どういうふうに生かしていきたいかということを一言ずつ。

【湯崎知事】

今日はいろいろな面で共同して取り組んでいることもありますし、それぞれ取り組んでいることで参考になることもあったと思います。イクメン、イクボスの話もそうですし、少子化対策、婚活ですね、こういうこともありました。また、サイクリングやウォーキング等のことは、先ほどの周遊チケットを含めて両県で取り組んでいこうと思いますので、そういったところもそれぞれ、さらに加速していきたいと思います。

【中村知事】

先ほど総括でお話しさせていただいたんですけども、メニューは同じであっても、得意、得意でない分野があると思うんです。ですから、私どもは広島県の先駆的な取り組みを大いに参考にさせていただきたいと思いますし、それを知る機会でもありました。

それから、また、やまなみも含めて、より一層面を拡大して、魅力を増していくことを共有するきっかけにもなったと思いますので、短時間ではありますけど、非常に有意義な会議ではないかなと思います。

【記者1】

他にないでしょうか。ありがとうございました。

【両県知事】

ありがとうございました。